

めざす児童生徒像

- なりたいたい姿に向かってチャレンジできる子
- 自分や友達のがんばりや成長を見つけたり、応援したりできる子
- 自分で考えてすすんで行動(学習)できる子
- 他者と話し合い、問題を解決したり、新しい考えを生み出したりできる子

※児童生徒結果-教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間			年度末			達成状況の分析	改善策	
				数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)					
				教員	児童生徒	保護者	教員	児童生徒	保護者			
(学校重点項目)	学校重点項目 学校教育目標 の めざす児童生徒像	①②③④の平均が 中間・・・85%以上 期末・・・90%以上	① 児童は、自分・学級・学校がより良くなるように考えて行動している。	100	91	89.5	-9	100	88	85	-12	・①②③④いずれも、教員アンケートの結果は100%であったが、児童は89.5%、保護者は85%で、前回よりも微減している。学校ビジョンの「めざす児童像」「めざす教師像」の実現に向けて、自分のよさに気づいたり、教師が児童の頑張りやよい行動を価値づけたりすることで、自己の成長をメタ認知させていきたい。また、行事や「学校会議」等の取組も大切に、クラスや学校の自治力を高め、人間関係づくりを推進していく。
			② 児童は、互いに認め合い、協働しようとしている。	100	94		-6	100	88.9		-11.1	
			③ 教師は、児童の良さを認め、意欲を引き出すよう努めている。	100	93		-7	100	91.7		-8.3	
			④ 教師は、授業力・生徒指導力・学級経営力の向上に努めている。	100				100				
			集計	100	92.7	89.5	-7.3	100	89.5	85	-10.5	

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	達成状況の分析	改善策		
重点項目 業務の改善 働き方	石川県共通	①②の平均が 中間・・・90%以上 期末・・・100%以上	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	80	100	超過勤務が80時間を超えた職員は4月に1名であった。4～6月の超過勤務時間平均は32時間で、昨年度の45時間より減少した。放課後の児童対応を必要とするのみに整理するなどし、さらに、9～11月は31時間へと減少した。	担任業務、教材研究の時間確保のため、日課や支援員の配置等の見直し、校務の平準化等を進め、やりがいのある職場としていく。ガイドラインの月45時間、年360時間を意識した効率的な働き方を一人ひとりに意識させる手立てを続ける。
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。	100	100		

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	達成状況の分析	改善策		
小松市共通重点項目	学校研究	①②の平均が 中間・・・85%以上 年度末・・・90%以上	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元(授業)構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	80	80	②は、年度末の目標指標を達成することができた。9～12月の間に1人1回研究授業と授業整理会を行うことができたからである。 ①は、達成できなかったが、研究授業を重ねることに単元構想の大切さや「共通の軸」についての理解を深められた。研究授業ではできたものの、日々の授業にいかすところはまだまだ不十分であるとの認識ももっていることが要因として考えられる。	今後も一人1回以上研究授業をすることを続けていく。 取り組みの提案・実施・検証を少し短いスパンで行うことを通して、学校研究の推進につなげていきたい。
			② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	100	100		
			集計	90	90		

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	達成状況の分析	改善策					
小松市共通重点項目	指導力の向上	①⑤⑥の平均が 中間・・・80%以上 年度末・・・90%以上	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	90.9	84.1	-6.8	81.8	85.2	3.4	課題解決に向けて意欲的な児童が増えてきたことから、より学習を深める手立てが必要だと考える。学習を深めるには話し合いが必要不可欠であること、4年生の学習意欲の伸びと話し合い活動への前向きな姿勢が全校の学習の良いモデルになることを踏まえ、3学期には4年生の話し合い活動を参観する機会を設ける。その参観をきっかけに全学年が自学年の話し合い活動を見直し、何が実践できるかを考え、授業で実践していく。
			② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。	81.8	87.9	6.1	90.9	88	-2.9	
			③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	81.8	86	4.2	81.8	84.3	2.5	
			④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えを伝えている。	72.7	89.7	17	81.8	88.9	7.1	
			⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	90.9	86.9	-4	90.9	90.7	-0.2	
			⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	100	94.4	-5.6	90.9	97.2	6.3	
			集計	86.4	88.2	1.8	86.4	89.1	2.7	

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	達成状況の分析	改善策		
小松市共通重点項目	学力の向上	①②③④の平均が 中間・・・85%以上 年度末・・・90%以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	100	100	・①②③④の平均割合が年度末目標指数の90%以上を上まわり、目標値に達することができたが、③④の達成の割合が減少し、学力向上の取り組みや小中連携での課題が見られる。	・③学力調査で、自校採点と結果の点数の差が大きい問題を分析し直し、全教員と共通理解を図り、2学期以降の授業改善につなげてきたが、まだ不十分であった。領域など、範囲を絞って具体的な対策を考えていきたい。 ・④他校の校内研修参加や授業参観など積極的に連携を図っていったが、今後は全教職員に研修や参観で学んだことを還元できる環境を整えていきたい。
			② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。	100	100		
			③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	100	90.9		
			④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)	100	90.9		
			集計	100	95.4		

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	達成状況の分析	改善策					
小松市共通重点項目	学習方法	①②の平均が 中間・・・80%以上 年度末・・・90%以上	① 児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行っている。	100	87.5	-12.5	100	86.1	13.9	・①については、家庭学習ががんばり週間の児童のふり返りを還元し、めあてに対する計画の立て方や修正の仕方、振り返りの仕方などを示し、どの学年も意識して取り組めるようにしたが、児童の実感がまだ足りなかった。もう少し早い時期に良い手本を示し、学び方を意識させられる取り組みにしていく。 ・②については、教員間で活用方法を共有するための研修会を継続して開き、授業や行事など教育活動の様々な場面に取り入れていく。
			② 児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用している。	90	88	-2	90.9	88	-2.9	
			集計	95	87.7		95.4	87		